

## 【ご案内】

### 第11回 遺伝カウンセラーのための実践集中講座 ～遺伝性腫瘍診療現場の即戦力を目指して～

国立病院機構四国がんセンター主催「第11回遺伝カウンセラーのための実践集中講座～遺伝性腫瘍診療現場の即戦力を目指して～」を下記の予定で開催致します。この講座は、主に遺伝カウンセラーコースの学生の方や現在勉学中の認定遺伝カウンセラーの方を対象に、遺伝性腫瘍の診療を行う際の遺伝性腫瘍のより正確な知識の習得、遺伝性腫瘍での遺伝カウンセリング技術の向上を目指すものです。遺伝性腫瘍の診療でより高いレベルを目指される方には是非お集まりいただきたいと思っております。

国立病院機構 四国がんセンター  
がん診断・治療開発部長 大住 省三

主催：国立病院機構 四国がんセンター  
後援：日本遺伝性腫瘍学会

- 日時：2020年8月4日（火）13:00～8月10日（月・祝）17:00  
※新型コロナウイルス感染症の状況により、急遽変更・中止する場合があります旨ご了承ください
- 場所：国立病院機構 四国がんセンター（〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲160番）
- 対象要件
  - ①遺伝カウンセラー養成課程の大学院生または修了生
  - ②認定遺伝カウンセラー
  - ③その他（上記以外で遺伝性腫瘍診療の関連業務に従事または従事予定）
- 修了要件
  - ①適宜の課題が提出できること（申請時、事前/事後に課題提出あり）
  - ②適宜の課題が合格基準に達していること
- 内容：別紙参照（資料1、資料2）
- 定員：6名 ※応募多数の場合、対象要件①を優先とし、現況レポートを基に選考します
- 受講費：学生2,000円 社会人20,000円
- 宿泊
  - 1) 施設  
希望者には、病院敷地内の宿泊施設「向日葵」をこちらで手配いたします。  
研修申込フォームに、宿泊施設の利用の有無をご入力ください。  
※備品等の詳細は当院のHPから「向日葵」の案内をご確認ください。

2) 宿泊費 (6泊7日)

学生 1,000 円      社会人 15,840 円

3) その他

来場には原則公共交通機関をご利用ください。

外部の宿泊施設を利用の場合、ご自身での手配をお願いいたします。

※伊予鉄道横河原線沿線が便利です。

9. 昼食

希望者には、平日分のみ昼食 (3日分/1,170円/自己負担) をこちらで手配いたします。

研修申込フォームに、昼食希望の有無をご入力ください。

※院内にコンビニや食堂がありますが、研修スケジュールが過密なため、事前申込がお勧めです。

10. 研修申込

1) 研修申込フォーム入力

**※切：7月6日(月)12時**

以下の URL または QR コードから研修申込フォームにアクセスの上ご入力ください。

※必ず添付可能なメールアドレスをご登録ください。

【申込 URL】 <https://bit.ly/2UsNg7n>



2) 現況レポート提出 (資料1-2)

**資料1『現況レポート作成』**項目についてレポートを作成し、メール添付(PDF)または郵送により提出してください。

**※切：7月6日(月)12時**

11. 個人情報

受講に際する個人情報(氏名・メールアドレス・所属・立場等)は企画側および研修生間で共有させていただきます。研修以外の目的で使用することはありません。

12. 受講決定通知等

**受講可否は7月13日(月)12時まで**に、メールでお知らせいたします。

受講決定者には、振込方法等の連絡事項をメールでお知らせいたします。

**資料3**にある事前課題を期限内に提出してください。

13. 問合せおよび現況レポート提出先 四国がんセンター (教育研修部)

TEL : 089-999-1111 (代表)

E-mail : 519-scc-kensyu@mail.hosp.go.jp

※ 件名「第11回遺伝講座」と表記してください

以上

## 1. 講座概要

### 1) 講師

田村智英子(FMC 東京クリニック/順天堂大学医学部附属順天堂医院 遺伝相談外来 遺伝カウンセラー)

松田 圭子(地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 遺伝カウンセラー)

金子 景香(がん研有明病院 臨床遺伝医療部 遺伝カウンセラー)

その他 (四国がんセンター 遺伝カウンセラー、医師、看護師等)

### 2) カリキュラム(予定)

#### ①がん診療の全般【講義】

- ・腫瘍学、疫学の基礎
- ・乳がん、大腸がん、婦人科がん等の臨床(診断と治療の実際)

#### ②遺伝性腫瘍、遺伝医学【講義/演習】

- ・基本知識と臨床応用  
遺伝性乳がん卵巣がん、リンチ症候群、FAP を中心に
- ・家族歴聴取、家系図に基づくリスク評価
- ・遺伝学的検査(マルチ遺伝子パネル検査を含む)と病的意義の解釈

#### ③カウンセリング理論と臨床応用【講義/演習】

- ・情報提供技術
- ・心理援助理論
- ・健康行動理論
- ・グリーフカウンセリング

#### ④がん患者・家族の支援体制【情報提供】

- ・がん相談支援センター概要・社会資源情報
- ・臨床心理士、看護師、医療ソーシャルワーカー等の他職種との連携

## 2. 現況レポート作成

以下の項目に沿って、遺伝性腫瘍に関する現況についてレポート作成してください

※レポート右上に所属・氏名を明記してください

- ①あなたがこれまでに遺伝性腫瘍について学んだこと
- ②あなたが遺伝性腫瘍に関する実践でできること
- ③あなたが遺伝性腫瘍の臨床において大切だと思うこと
- ④あなたがこのセミナーで学び、できるようになりたいこと

またそのことについて現時点での到達度を%でお示してください。

※研修終了時、同じ内容の到達度自己評価を行い研修評価の指標にさせていただきます。

例) 研修前: 家系情報から適切なリスク評価ができる。(現時点到達度 45%)

研修後: 家系情報から適切なリスク評価ができる。(現時点到達度 65%)

## 参加者の声

本講座は2012年より開催しており、これまでに延べ125名にご参加いただきました。参加された皆さんの感想の中から一部抜粋して、紹介します。

- ◇ 今回はロールプレイでたくさん反省が残ったので、もう一度やるチャンスがあれば良いと思いました。でも、細かなフィードバックを自分のロールプレイにもらえたり、クライアントは本当は何を思っているのか、それに対してどうするのかを考えたり、とても勉強になりました。
- ◇ 先生や他の受講生のロールプレイを見ることで、良いところを真似したりできるので、みんながロールプレイを練習できるのはとても勉強になりました。
- ◇ 非常に有益だったのは、家系図をたくさん提示いただき、どのような疾患をどの程度疑うべきなのかの実際のディスカッションです。第一に疑う遺伝性腫瘍だけでなく、その他に鑑別すべき遺伝性腫瘍がないかどうかという観点をもつことが、遺伝カウンセラーとしての存在意義だということを中心に刻みました。
- ◇ 遺伝カウンセラーコース在籍時には、“遺伝性”腫瘍に focus して学習していたが、一般的ながんがどのように診断され、治療されていくのかという、がんの総論を今回改めて勉強することが出来たので、遺伝性腫瘍と一般的ながんの共通点・相違点が自分の中でクリアになった。
- ◇ 田村智英子先生の心理援助理論の講義は、認定遺伝カウンセラーがどのようなことを心がけて実践しているのかということがわかり大変勉強になりました。もっともっとお話が聴きたかったです。
- ◇ 集中講座に参加しなければ、会うことのできなかつた仲間と出会えた。遺伝カウンセラーやその卵だけでなく、他職種の参加者がいたのも良かったと思う。
- ◇ まだ遺伝カウンセリングについて学び始めのときに、講座に参加して有意な時間を過ごすことができるのかと不安を感じながら参加したが、講座に参加したことで医療従事者としての自分の中の価値観や考え方を変えることができ、この講座が私にとっての Teachable Moment となった。
- ◇ 医師の先生方、看護師の方、患者・家族支援センターの方、心理士の方など、様々な職種の方からお話を聞くことができ、遺伝性腫瘍の診療についてこれまでよりも広い視野で捉えることができるようになりました。自分にはない視点をもった先生方から聞くお話は、どれも非常に興味深いものでした。
- ◇ 四国がんセンターでの一週間の集中講座を終え、愛媛から戻り、迎えた翌日月曜日の朝は、とても清々しい朝でした。身体的にはとても疲れているはずでしたが、病院へ向かう道すがら、あの点はこういうふうに改善してみよう、新たにこういうことに取り組んでみよう、とさまざまな考えが浮かんでいました。

以上

**【事前課題】※受講決定者のみ****第 11 回遺伝カウンセラーのための実践集中講座**

本講座では、遺伝に関する基礎知識の講義形式の座学は極力少なくし、既に習得済みであることを前提として、対面研修ならではの実践的な演習形式を中心に行います。そのため、実践に必要な基礎知識は研修当日までにご自身でご確認ください。また本講座に必要な基礎知識として、下記の課題を行ってください。

**1. 次の7項目について基本事項を整理しレポートを作成する（事前提出：不要）**

①家族性大腸ポリポシス（FAP）、②リンチ症候群、③遺伝性乳がん卵巣がん、④リー・フラウメニ症候群、⑤フォンヒッペルリンドウ病、⑥多発性内分泌腫瘍症1型（MEN1）、⑦多発性内分泌腫瘍症2型（MEN2）の7項目について基本事項を整理しレポート作成してください。事前提出は不要ですが、研修当日にご持参ください。書式は、受講決定メールに添付される『【様式】疾患別基本事項整理シート』をご利用ください。

本課題に際し、「NCCN ガイドライン」の資料、「GeneReviews」のサイトを参照してください。その他、それぞれのがんの診療ガイドライン等も参考にしてください。

**【参考資料】****\* NCCN ガイドライン (<http://www.nccn.org/>)**

上記 URL より NCCN(National Comprehensive Cancer Network)のサイトにアクセスの上、アカウント登録を行い（無料）、以下のガイドラインをご自身でダウンロード入手してください。

- ① NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology “Genetic/Familial High-Risk Assessment: Breast, Ovarian and Pancreatic ” version1.2020
- ② NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology “Genetic/ Familial High-Risk Assessment: Colorectal” version2. 2019
- ③ NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology “Neuroendocrine and Adrenal Tumors” Version1.2019

※最新版ではありませんが、日本語版は下記 URL よりダウンロードできます[登録不要]。

<https://www2.tri-kobe.org/nccn/>

**\* GeneReviews (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK1116/>)**

日本語版：<http://grj.umin.jp/>

**\* 多発性内分泌腫瘍症サイト (<http://men-net.org/medical/guidance.html>)**

## 2. 家系図作成とそのリスク評価についてレポートを作成する（事前提出：必要）

友人・知人など周囲の方を1名選び、家族歴を聴取し家系図を作成してください。さらにその家系図の内容から、遺伝性腫瘍の可能性を評価しレポートを作成してください。

本課題に際し、参考資料を2点添付していますので、ご参照ください。

※レポート作成例を参考にしてください

※提出方法は、メール添付（pdf）または郵送 **〆切 7/20（月） 12:00**

### \* 注意事項

家系図作成およびリスク評価レポート作成に際し以下のような点に注意してください。

- ① 他者が聴取した情報ではなく、必ずご自身で聴取した情報から作成してください。
- ② 家系図の方式は、米国 NSGC（添付の文献を参照）に準じてください。
- ③ 用紙は A4 横書。家系図とリスク評価レポート各 1 枚の計 2 枚（裏表にせず各 1 枚で印刷）
- ④ 手書可ですが、コピーしますのでボールペン等を使用してください（鉛筆不可）。  
本講座内で共有するので、見やすい字の大きさを、用紙全体を広く使ってわかりやすく書いてください。
- ⑤ 実際にカルテに綴じることを想定したり、研修でコピーすることを考慮し、記号の中を塗りつぶす際には、色分けではなく白黒で判別できるよう工夫し、用紙の周囲は 2 センチ程度の余白をとってください。
- ⑥ 家族歴は 15～20 分程度で聴取できる範囲の情報で結構です。家系員全員の年齢や性別等がすべて細かく書かれていなくてもかまいません。遺伝性腫瘍の可能性を評価するのに必要な情報が聴取できているかどうかを確認します。
- ⑦ リスク評価レポートは数行程度で結構ですので、家系図とは別用紙に記述してください。
- ⑧ 家系図およびリスク評価レポートともに、右上に聴取年月日・受講生の氏名を明記してください。

### 【参考資料】

- ① Bennett RL et al (1995). Recommendations for Standardized Human Pedigree Nomenclature. Journal of Genetic Counseling. 4(4): 267-279.
- ② Bennett RL et al (2008). Standardized Human Pedigree Nomenclature: Update and Assessment of the Recommendations of the National Society of Genetic Counselors. Journal of Genetic Counseling. 17: 424-433.

## 3. その他参考図書

\* 大腸癌研究会編、遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2016 年版、金原出版株式会社、2016 年

\* 厚生労働科学研究がん対策推進総合研究事業研究班編、遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）診療の手引き 2017 年版、金原出版株式会社、2017 年

【WEB 版】 <http://johboc.jp/guidebook2017/> ※CQ 1 が改定されました。

以上